

I-6 ○アトピー性皮膚炎に対する分子栄養学的治療法。

○鈴木 美恵子

(医療法人M・Dみゆきクリニック 皮膚科)

[目的]思春期、成人期のアトピー性皮膚炎(以下AD)症例に近年欧米で発達してきた分子栄養学を応用し、ビタミン、ミネラル剤、その他の栄養物質の投与を行い、有効性が認められたので報告する。

[方法]平成8年から当院にて治療した15歳以上のアトピー性皮膚炎患者で、半年以上、下記の治療を継続できたもの48名を対象に臨床症状の改善度にて有効性を評価した。①食事指導②米国製天然総合ビタミン・ミネラル剤(以下サプリメント、あるいは栄養素)の服用③上記①、②で完治しない場合に可能な限り毛髪分析検査を行いミネラル他栄養食品の追加補充を行った。

[成績]臨床症状は48名中43名改善。2名6ヶ月の時点で無効以後中断。有効43名中1名は6ヶ月で無効であったが治療継続し、1年で明らかに有効。以下代表3例を呈示。症例(1) 25歳男性。H10年11月より悪化し、温泉入浴治療を5ヶ月行うも不変にてH11年3月に当院受診。4月3日よりサプリメント服用を開始。3ヶ月後より症状は半減し、4ヶ月後にはほぼ消失した。症例(2) 22歳女性。乳児期より軽症のADであったが、19歳より顔面から皮疹が拡大、その後難治となり、当院受診。標準治療を8ヶ月行うも無効の為、H10年2月よりサプリメント内服を開始。約1ヶ月後より症状好転、5ヶ月後にはステロイド離脱完了し、1年以上経過するも頸部の軽度皮疹の出没のみで著明改善が持続。症例(3) 22歳女性。H5年より春、夏の悪化が全身に及び毎年反復。H11年6月より栄養素治療開始。冬季寛解するもH12年5月に軽度再発。毛髪分析検査を行い、結果に従いマグネシウム、マンガン、鉄を補充後2週間で好転。以後現在まで軽症を保っている。

[考察]年齢的な自然治癒が少ないと思われる15歳以上のアトピー性皮膚炎症例に、栄養素治療が有効な例が多数認められた。この疾患の病態にビタミン、ミネラル特にミネラルはマグネシウム、マンガン、亜鉛、鉄などの微量栄養素の不足による生化学的な代謝異常が関与している可能性が考えられた。